

平成30年4月3日

会長・副会長から各部への御検討依頼事項

以下の事項について、本日15時からの各部会においては是非とも御検討いただき、明日13時からの総会において各部長から検討結果を御報告いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします（御報告は、口頭で結構です）。

○ 山極会長からの依頼事項

- ・第23期3年目の活動に対する外部評価書（資料3）を踏まえ、今後どのような対応が可能か。

○ 三成副会長からの依頼事項

- ・第一部にはジェンダー関連分科会を多く設置しているところ、第二部、第三部にもジェンダー関連分科会を設置していただき、学協会連合等とも協力していただきたいと考えているが、対応可能か。

○ 渡辺副会長からの依頼事項

- ・学術会議が社会の課題と向き合うために、第一部、第二部、第三部にて学術会議活動とSDGsの関係を議論いただきたい。

(以上)

各部への検討依頼事項



平成30年4月3日

「政府・社会・国民との関係」担当副会長

渡辺美代子

学術会議提言・報告とSDGsとの関係（2016/12調査）

22・23期の全提言および報告とSDGs各項目の関係（関係度は花本副会長が判定）																			
		1. 貧困	2. 飢餓	3. 健康	4. 教育	5. ジェンダー	6. 水と衛生	7. エネルギー	8. 経済と雇用	9. 産業と基盤	10. 公平性	11. 人間居住	12. 生産消費	13. 気候変動	14. 海洋資源	15. 陸域生態系	16. 平和と公正	17. パートナリシップ	SDGsの発想
22期提言	◎	2	0	8	5	1	0	0	5	9	2	10	0	1	1	1	0	3	0
	○	4	0	20	20	1	1	2	14	18	3	19	3	0	0	5	3	12	0
	△	2	1	5	4	0	0	0	7	4	0	7	2	0	0	1	1	1	0
23期提言	◎	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	2	0	2	1	2	0	1	3
	○	2	1	14	24	3	0	0	5	16	4	15	2	2	0	2	4	5	3
	△	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
提言計	◎	2	0	8	6	2	1	1	5	10	2	12	0	3	2	3	0	4	3
	○	6	1	34	44	4	1	2	19	34	7	34	5	2	0	7	7	17	3
	△	2	1	5	9	0	0	0	7	5	0	7	2	0	0	1	1	1	0
22期報告	◎	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	○	0	1	7	20	0	1	1	3	6	2	7	1	1	1	3	3	3	0
	△	0	0	4	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23期報告	◎	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	○	0	0	8	22	0	0	1	2	4	0	5	3	2	1	4	1	2	0
	△	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報告計	◎	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
	○	0	1	15	42	0	1	2	5	10	2	12	4	3	2	7	4	5	0
	△	0	1	5	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（提言+報告）計		10	4	68	101	7	3	7	37	64	11	65	12	9	4	18	12	27	7

✓第22, 23期提言と報告は、SDGsすべての目標と関係している

✓どのような関係かについては不明

例えば、第23期提言「持続可能な地球社会の実現をめざして—Future Earthの推進—」とSDGs各項目の関係

関係あり	6 安全な水とトイレを世界中に	7 再生可能エネルギー	9 産業と基礎構造物の発展	11 住み続けられるまちづくりを	13 気候変動に具体的な対策を	15 陸の豊かさを保ち増進	17 パートナーシップで目標を達成しよう			
関係なし	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	8 働きがいも経済成長も	10 人や国の不平等をなくそう	12 つくる責任 つかう責任	14 海の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に

第23期学術会議SDGs対応分科会から 第24期への申し送り事項（井野瀬委員長）

1. 「科学と社会委員会」のもとにSDGsへの対応を検討する分科会を設置し、SDGsとの関係の認識が薄い分野をも巻き込みながら、各部並びに若手アカデミーを含めた議論が必要である。
⇒ 学術会議全体で取り組むために、「科学と社会委員会」がファシリテーター的役割を果たす
2. 「SDGsへの対応」には、「学術会議がSDGs にどのように関わるか」とともに、「学術会議自体がSDGs 対応によってどのように『体質改善』するのか」も含まれる。そのためには、学術会議の特徴である俯瞰的な視点がますます重要となる。
3. SDGs に照らして学術界をレビューし、学術界もまたSDGs をレビューする—SDGs にこの双方向で向き合う認識が求められる。
4. 研究者、とりわけ若手研究者に対する業績評価をSDGs との関係で見直すことを視野に置いて考える。
5. 学術会議以外の国内外の組織の動きや議論のあり方に関する情報を集め、フィードバックするなどして、学術会議での議論の相対化に留意する。



SDGsと学術 -概要-

2017/1/30 科学と社会委員会 沖大幹氏発表資料より

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

- ✓2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択
 - ・「我々の世界を変革する」
 - ・「誰一人取り残さない」
- ✓17目標、169ターゲット、232技術指標
 - ・法的拘束力はなし
 - ・経済、社会、環境の3つのバランスが大事
 - ・パリ協定（これも理想主義的）、仙台防災枠組み
 - ・現世的利益が全面に（文化的・精神的満足は?!）

ICSUによるSDGs論評（2015）

- ✓MDGsが無視していた重要な要素（不平等、消費など）が入った
- ✓全体として何を目標しているのかの統合目標と説明が必要
- ✓目標やターゲット間のトレードオフと相補性を続報で特記すべき
- ✓他の国際合意との整合性が必要
- ✓目標達成に必要な政府以外のアクターが十分に取り込まれていない
- ✓目標が多すぎるが、その長所もある
- ✓実行主体とその動機付け、目標達成の時空間スケールの明確化が必要



SDGsと学術 -問題提起-

2017/1/30 科学と社会委員会 沖大幹氏発表資料より

- ✓SDGsから学術への貢献
 - ・学問のあり方の見直し⇒well-being増大に資する学問
- ✓SDGsへの学術の貢献
 - ・社会、経済、環境（温暖化だけでない）を支える学術
 - ・目標間のトレードオフへの解明、戦争回避
 - ・従順な観客か主体的な選手へ
- ✓“The Future We Want”を実現する学術
 - ・社会の何が、どのくらい持続することが望ましいのか？
 - ・どうすれば望むべき社会を持続させることができるのか？
 - ・そのためには我々は何をすべきなのか？何ができるのか？



各部で議論いただきたい論点

1. 社会課題をSDGsと捕らえ、学術会議がSDGs達成のために何ができるのか
2. SDGsの枠組みだけでは十分に反映されない学術の社会への貢献は何か
 - ・知的好奇心の充足、芸術・文化など
3. 学術会議がSDGs 対応によってどのように『体質改善』するのか
 - ・Well-beingに貢献する学問など
4. 学術界とSDGs の双方向性を具体的にどう捉え、どう実践するか
5. 社会、経済、環境のバランスを重視した学術は何か
 - ・縦割りからの脱却
6. 若手研究者の課題をSDGsと関係して解決できないか

